

# 同窓会通信

2010号  
NOVEMBER

会長あいさつ



同窓会会長  
森中 祥二

## 45周年に向けて

拝啓

初冬の候、会員皆様におかれましてはご健勝の事とお慶び申し上げます。早いもので四十周年の総会を行いましてはや五年、四十五周年の総会の案内をする季節となりました。振り返ってみますと大きく様変わりした五年間であると思います。広島経済、いえ日本経済も回復したかのように思いましたら、リーマンショック以来ますます景気は低迷し、先行き不透明な時代となってまいりました。

そんな激動の中、我が母校は校名の変更、新校舎建築と目覚ましい発展、進化をしています。注目すべき点は教育内容にあります。十六年前より大きく様変わりし「新しい時代」に対応できる人材育成を実施されています。

まさにこういった激変する時代、社会環境の変化に対応できる人材が必要不可欠であると実感しているところであります。目ざましく様変わりして行く時代、後輩の活躍を期待しています。今年度はスポーツにおいても、めまぐるしい活躍をしています。39年ぶりとなる軟式野球部の全国大会出場。創部24年目団体初の全国大会出場のテニス部。陸上部は「全日本中学校陸上競技選手権大会」出場等、勉強だけに偏らない文武両道、バランス感覚のとれた生徒達の活躍に目を見張ります。

私たちが学び舎として通学していました頃の先生方も教壇に立たれ指導にあたっておられますが、若くてエネルギッシュな先生方も沢山おられます。新校舎も素晴らしい建築です。海老山方面においでの際は一度学校を訪ねるのも良いと思います。まずは来年平成23年1月8日恩師の先生方を囲んで、懐かしい話を花を咲かせようではありませんか。

別紙の案内のとおり四十五周年の総会、講演会、懇親会を開催いたします。懐かしい友人との再会を期待しながら有意義な時を過ごしましょう。

ふるって参加頂きますようご案内いたしまして挨拶とさせていただきます。

敬具

校長あいさつ



校長  
白岩 博明

## バランスのとれた人材育成を目指して

本校同窓会が四十五周年という節目を迎えるにあたり、心からお祝詞申し上げます。また、同窓会員の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、広島なぎさ中学校・高等学校への校名変更、ならびに佐伯区三宅から海老山南への新校舎移転から間もなく3年の月日が経過いたします。本校の飛躍的な教育改革から十余年、こうした慌しさの中にあっても、本校は着実に深化の方向に邁進しております。

その一端に、私たちが展開する私学らしい独自の教育があります。それは、学園の建学の精神「教育は愛なり」、教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」にたえず沿いながら、生徒に2つの力を身に付けさせることを主眼においた手法です。私たちは生徒が抱える実態（現実）から問題を見極め、その解決には目に「見える力」と「見えにくい力」を育成することが必要であると考えました。「見える力」とは、いわゆる進学学力も含め学びの感性と姿勢に基づく能動的な知力であり、それは「21世紀型高学力」と呼ぶものです。「見えにくい力」とは、生きる力を育む特色教育を基盤に展開され、次代に生きる生徒に必要とされる「国際性」「創造力」「人間力」と呼ぶ、人としての基礎力です。

この「見えにくい力」が「見える力」を支え、生徒の人生を創っていくことになるのです。4つの教育目標「21世紀型高学力の養成」「国際性の涵養」「創造力の錬磨」「人間力の育成」によって具現化されるプログラムに基づいて“二兎を追う”。私たちは、「なぎさスタンダード」と呼んでいます。

特に「人間力の育成」は、心身ともに劣化著しい今日の中高生にとって必須の中身のように痛感しています。例えば昨年からはじめた「夜間歩行」という高校1年生のプログラム。“しまなみ海道”の43kmを夕方に出発して翌朝ゴールするという、ただ歩くだけの中身。しかし、そこには歩ききることの深さが次への一歩であることを時間の経過と共に感じていくのです。

知性と人間性を備えた人材育成、この「なぎさスタンダード」を更に深化させたいと思います。

注意、毎年春に同窓会通信を発送していますが今回は45周年の案内と同時に案内するため発刊をずらしました。

高校2年生  
研修旅行

# 森と共に暮らす人々に出会う旅

今回は4つの教育目標からなる中で異文化体験を通して育まれる国際性や、想像力、人間力についてご案内します。これからますます必要となってくる地球的規模で物事をとらえ、考えることを意識的に取り入れた体験学習。現地での体験内容はもちろん、事前・事後の学習にも工夫を重ねられたプログラムは、実に興味深いところです。そのひとつ「サラワク・スタディーツアー」に参加した生徒たちの学びをご覧ください。

## この大胆な「研修旅行」はどうして生まれたか？

この研修旅行の大きな目的は、未知の世界、異文化体験を通して、新しい価値観や生き方を発見させることにあります。つまり、ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化がますます顕著になり、これからの時代は、国際感覚を身につけることが不可欠となっています。しかし、これまでの知識→記憶→再生という記憶中心型の教育では、世界に通用する国際感覚を養うことは難しいのです。ならば、どんな手だてを講じなければならないか…。そんな想いと試行錯誤の連続から生まれたのが、この研修旅行なのです。



## 学びを決定する4つの目標・事前学習

マレーシア研修旅行では、「サラワク州の先住民イバンの人々を訪ね、イバンの文化・生活を体験することによって、自らの生き方を考える」という目的を設定している。この目的を達成するために下記の4つの目標がある。

- (1) ロングハウス共同体でのイバンの人々との交流を通して、人・社会・自然とのつながりを体験し、新しい価値観や生き方を発見する。
- (2) イバンの文化・生活を体験し、アジア・開発途上国・マイノリティなどに対する蔑視・偏見を克服することによって、多文化と共生する能力を高める。
- (3) サラワク州の都市やロングハウスに滞在し、熱帯林や油ヤシのプランテーション、合板工場、植林研究所などを見学することによって、サラワクと日本のつながりについて考える。

(4) イバンの人々やNGO関係者など多くの人々との交流を通して、地球的諸課題に取り組む意欲を高める。

生徒一人ひとりが、現地学習に主体的・創造的に参加できる能力を育成することをめざして事前学習を行う。現地で生徒が何を学ぼうとするか、何を学ぶことができるかは、事前学習で彼らがどのような問題意識を持つかでほぼ決定されると言っても過言ではない。

生徒が選んだツアーテーマ  
人と人とのつながり／今の自分・これからの自分／助け合い文化から学ぶ「幸せ」について／心のあたかみについて／本当の豊かさ／人と人のかかわり／人との在り方／自分の器を広げる、ということ／日本が忘れてしまったもの 他



## 命がけの水浴び Mandi (マンデイ)

サラワクの森では当然、日本のお風呂はない。その代わりにMandiと呼ばれる川での水浴びだ。なんだ水浴びかと侮るなかれ。川の流が予想以上に速い。水に流されそうになる者続出。命がけである。そんな危なっかしいボクたちにイバンの人たちはとても親切にMandiの方法や川底の様子を教えてくれた。

また、川の深いところを通るときは数人が手をつないで、おぼれる者を出さないよう気を遣ってくれた。イバン語を話す彼らと、言葉でのコミュニケーションはどれほどとれたか分からないが、身ぶり手ぶり、そして何より、心という手段によって意志の疎通ができたような気がした。少し温かい気持ちになる…、ジーン。



## 強烈な衝撃の中で始まった歓迎の儀式!

Bebedaiという太鼓の音と、伝統的な民族衣装に身を包んだ女性たちによって、ボクたちはイバンの住むロングハウスへと迎えられた。垂れ幕には「Salamat Tengahari(こんにちは)」の文字。遠く日本からやって来たボクたちを歓迎と好奇のまなざしで見つめるイバン人。その数の多さに圧倒!村の入口を抜けると、Babi(日本でいう豚かイノシシ)が生け捕りにされていた。悲痛な(ボクには確かにそう聴こえた)叫び声を上げるBabi。なんかイヤな予感…。歓迎の儀式は来客者が必ずやれなければならない。まず「清め」の意味を込めてお酒がふるまわれる。ボクたちが見守るなか、野中先生と数人のイバン人が1本の槍をいっしょに持って、Babiの首に突き刺した。一突ごとに叫ぶBabi。初めての光景にボクたちは

んな固唾をのむ。Babiはしばらく痙攣した後、息絶えた。イバンの森にも近代化の波が押し寄せ(?!),建物はず木製ではなくコンクリート製、高床式でもなかった。それに、カメラやテレビ、ラジカセを持っている人もいたのには少々びっくり。



ロングハウス  
全長110mもの長さの建物で、ハウス内には24の部屋があり、24世帯150人が生活している。

## 自給自足でまかなう Makai (食事)

ロングハウスでの食事は、用意ができると鐘が鳴らされ、男の人と客はRuai(廊下)でいくつかの輪を作り、たくさん並べられたおかずの中から自分の好きなものを自由にとって食べるようになっている。女の人と子どもはDapur(台所)で男の人が食べ終わってから

食事をする。主食はボクたちと同じで米。イバン人は手で食事をしますが、ボクたちにはスプーンが出された。おかずは毎食5〜6品くらい。塩味やカレー味、Kuah(クーワ)と呼ばれるソースで味付けされ、全体的にあっさりしてしつこくない。



## そして別れの儀式・出発 Selamat tinggal(さようなら)

明日いよいよここを立つという日、最後の食事をとったボクたちは別れの儀式に出た。村長さんたちが挨拶をし、ボクたちも自分の胸の中にある複雑な気持ち(感謝の気持ちとか、別れの悲しみとかそんなものがぐちゃぐちゃにまざったもの)をイバンの人たちに述べた。そして、別れの悲しみを振り切るかのように、踊り、歌った。翌朝、いつもどおりの朝食だったが、ただ一つ違うのはこれがここでの最後の食事だということ。来たときと同じようにロングボートに乗る。ボクたちのボートが岸を離れていくと、イバンの人たちは手をずっと振り続けてくれた。「Selamat tinggal(さようなら)!」



別れを惜むイバンの人たち

## 学んで体験して伝える・事後学習

事後学習の目的は、現地で体験したことを振り返り、体験からの学びを第三者に発信することによって深化させることであるという。

「感動した」「考え方、価値観が変わった」これは、私たちが研修旅行について話すときに欠かせない言葉です。多くの高校の研修旅行では、こんな言葉を口にするのは少ないと思います。普通の研修旅行は「行って、観光して、帰る」という感じですが、私たちの研修旅行は「学んで、体験して、伝える」というものです。私たちは研修旅行から帰ってきて、さまざまな機会に、体験を通して感じたこと、考えたことを伝えました。例えば、社会科(地理)の授業でアジアについて勉強している中学1年生に現地のリアリティーを感じてもらうために、サラワ

クやイバンについての話をしました。私たちがサラワクやイバンのことを周りの人に話すことで、聞いた人が興味を持ったり考えてくれたりすることが大切だと思っているのです。また、正確に伝えようとする中で、私たちが深く幅広く学ぶことができます。このように私たちの研修旅行は普通の研修旅行とは全く違うものです。そのなかで私たちはたくさんの方の事を学び、考えることができました。そして、それを色々な人に伝えることが大切だと思います。伝えることで、的確なアジア観が広まり、少しでも偏見や誤解がなくなればと思います。

## 先生の想い 自らの生き方に繋げる

サラワク・スタディーツアーに参加した生徒は、本校中学1年の社会科(地理)での授業、文化祭での発表など、「発信型」の学習活動を取り入れた事後学習を通して、体験から学んだことを深化させ、自らの生き方に繋げている。現地学習を終えた直後、生徒はイバンでの体験から強い感銘を受けているが、まだ自分の生活や周りの社会から遊離している場合が多い。イバンでの体験が生徒の生き方に影響を及ぼすためには、現地学習後の生活の中で、体験からの学びを整理し直し第三者に発信することによって、学びを深化させるプロセスが必要になる。言い換えれば、体験からの学びを整理し直し発信する機会が設定されなければ、どんなに内容のある異文化体験であっても、自分の生活や社会を変える力には発展し得ないということである。

# 沢山の生徒が自分の目標にチャレンジ 夢に一步近づきました。

「大学進学は中学校・高等学校6年間の学びのゴールにあらず。大学進学はあくまでも通過点。ゴールはさらにその先にあり。」という方針で進路指導を行っています。が、人生目標の達成には大学選択は重要です。そのためには“学びたい”大学を選択することが基本です。ほとんどの生徒は、6年間で培ったさまざまな学びと経験に基づいて大学を選択します。今年度も培ったものを目標や夢として携え、ハードルの高さに果敢に挑戦し、それをクリアした生徒が多く見られました。こうした経験が、また、人としての魅力を大きくしていくはずだと確信しています。

## 2010大学入試 合格状況 (2010.3月26日現在)

卒業生180名(男子99名、女子81名)

### 私立大学

大学	合格数	内 訳	
		男子	女子
酪農学園大	1		1
文教大	6	4	2
明海大	1	1	
青山学院大	6	3	3
恵泉女学園大	1		1
慶應義塾大	6	5	1
国際基督教大	1		1
國學院大	2	2	
国士舘大	3	3	
駒澤大	2	2	
芝浦工業大	2	2	
実践女子大	1		1
上智大	6	2	4
成蹊大	1	1	
成城大	1		1
清泉女子大	1		1
専修大	6	4	2
玉川大	3	1	2
多摩美術大	5		5
中央大	8	5	3
東海大	4	4	
東京工芸大	2		2
東京都大	1	1	
東京農業大	2	1	1
東京理科大	10	8	2
東洋大	1	1	
日本大	9	3	6
法政大	6	3	3

大学	合格数	内 訳	
		男子	女子
武蔵大	1	1	
武蔵野美術大	1		1
明治大	14	9	5
明治学院大	3	2	1
明星大	1	1	
立教大	6	1	5
早稲田大	17	10	7
神奈川大	2	2	
北里大	4	2	2
鶴見大	1	1	
金沢医科大	1	1	
常葉学園大	2	2	
中京大	3	3	
名古屋音楽大	1		1
南山大	2	2	
皇學館大	1	1	
京都産業大	4	4	
京都女子大	1		1
京都薬科大	1		1
同志社大	24	22	2
同志社女子大	2		2
佛教大	2		2
立命館大	55	49	6
龍谷大	6	6	
大阪経済法科大	3	3	
大阪芸術大	2	1	1
大阪薬科大	3	2	1
関西大	16	12	4

### 国立大学

大学	合格数	内 訳	
		男子	女子
関西外国語大	3		3
近畿大	11	10	1
甲南大	1	1	
関西学院大	28	13	15
神戸薬科大	4	1	3
武庫川女子大	1		1
岡山理科大	2	1	1
エリザベト音楽大	1		1
比治山大	1		1
広島経済大	6	5	1
広島工業大	30	27	3
広島国際大	12	8	4
広島修道大	29	19	10
広島女学院大	2		2
広島日赤看護大	3		3
広島文化学園大	1		1
安田女子大	30		30
福山大	1		1
松山大	1		1
西南学院大	3	3	
福岡大	2	1	1
福岡歯科大	1	1	
立命館アジア大	1		1
南九州大	1	1	

### 公立大学

大学	合格数	内 訳	
		男子	女子
首都大学東京	1		1
福井県立大	1	1	
名古屋市立大	1	1	
京都府立大	1	1	
大阪市立大	1	1	
大阪府立大	1		1
尾道大	1	1	
県立広島大	7	2	5
広島市立大	5	4	1
山口県立大	1		1
北九州市立大	2	2	
九州歯科大	1		1

### 大学校等

防衛医科大学校	1	1	
海上保安大学校	1	1	
水産大学校	1	1	

### 短期大学

神戸常盤短大	1		1
--------	---	--	---

### 専門学校

三次看護専門学校	1		1
----------	---	--	---

合計	合格数	内 訳	
		男子	女子
私立大学	452	282	170
国公立大学	102	69	33

(過年度生を含む)

## 同窓会からののお知らせ (クラス会や学年会の開催案内のお役立てください。)

### ◆ 同窓会 会員への案内状の住所印字サービスを行っています。

#### 案内をする側も、受け取る側も安心!

個人情報保護法の施行以来、同窓生の個人情報につきましては学校の事務長が保管・管理し、外部への持ち出しを禁止しております。

しかしながら、同窓会会員からは、クラス会や学年会を開催したいと名簿の要請があります。

そこで同窓会では、同窓会専用封筒に宛名を直に印刷

するサービスを行うこととしました。

利用者が、用意した封入物は学校内で封入し、利用者に封筒を渡すことなく学校から直接郵送します。

個人情報の流出防止に細心の注意を払っています。

安心してご利用ください。



詳しくは学校の事務長までお問合せください。

☎ (082) 921-2137

## 同窓会事務局

〒732-5138 広島市佐伯区海老山南2丁目2-1 TEL (082) 921-2137 FAX (082) 924-3020